

税金に感謝

古堅中学校3年 上地 由花

毎日コロナウイルスのニュースが流れる中経済政策として「特別給付金支給」や「消費減税を検討」「GoTo キャンペーン実施」などが議論されています。どれに関しても賛否両論ある中で、「税金のムダ使いだ！！」という言葉もよく聞きます。なので税金の使われ方に関心を持つ小中学生も増えていると思います。

もちろん今議論されていることにも関心はありますが、私は小学生の頃から「税金に助けてもらっている。」という強い思いがあります。それは私が生まれつき足が不自由で小さい頃から病院や福祉のお世話になっている状況にあります。これまで大きな手術を三回して、その治療のため入退院も繰り返してきました。そのたびにかかった医療費を全額自分で支払うことになったら、家族みんなの収入を合わせても支払えないくらいの費用でした。私が入院すると、母も付き添いで仕事を休むこととなります。とても大変ななか、治療に専念出来るのは医療費を補助してもらっているからで、その補助はみんなの納めてくれた税金からなので、たくさんの人に助けてもらっていると思います。医療費だけではありません。今乗っている車いすも補助金をもらって作っています。車いすがあるおかげで自由に移動することが出来ます。それから小さい頃、児童デイサービスにもお世話になっていました。障がいがあっても安全に楽しく過ごせる施設なので、両親も安心して仕事が出来たと話していました。小学校に行ってから支援学級の肢体不自由クラスを設立してもらい、体調の悪いときや、長期休みの後、復習するための時間をそこで過ごしました。中学に入学してからも肢体不自由の支援学級があり、一日六時間のうち体調に合わせてそのクラスに行き、支援学級担任の先生に体をほぐしてもらったり、遅れている分の勉強を見てもらったりしているので、無理せず学校に通うことが出来ています。

痛いことや、泣きたくなること、不自由なこともたくさんありますが、今こうして同級生と一緒に過ごすことが出来るのはその環境を作ってくれる方たちがいること。そしてその環境を作るのに必要なお金に税金が使われていること。私は誰よりもそこに感謝しないとイケないと思っています。将来、私だから出来ることを仕事にして、たくさん稼げる人になって、たくさん税金を払います。それが今助けてもらっている私の社会への恩返しです。